

若年幹部ハ機空整備參考資料(速報)或ハ他部隊ノ整備狀況及故障實例等ヲ聞知シ該博ナル知識ノ取得ニ努ムルト共ニ整備學生ノ機種別教育ノ給長ヲ過大ニ誇負シ自己ノ腕ニ相憑セザル自信ヲ抱クガ如キコトナキ様戒慎スベキモノト認ム

(一)整備分隊長ノ燃費ニ對スル觀念少シ即チ各機ノ燃費狀況ヲ具體的ニ知り居ル分隊長ナシト言フモ通言ニ非ズ、燃費ヲ知ルハ航續力或ニ空戰時間ノ延長ヲ計リ又發動機良否ノ判別、燃料ノ經濟等ヲ計ルニ極メテ肝要アリ故ニ分隊長ハ常時飛行作業ニ留意シ以テ其ノ良否ヲ檢討セザルベカラズ

(二)分隊長ノ整備實狀ニ對スル認識稍乏シキ感アリ、例ハバ點火栓試驗器ノ不足ヲ漫然トシテ放置シ或ハ外形ハ整ヒ居ルモ内部故障ノ爲甚シク不良ナル試驗法ヲ實施シ居ルヲ知ラザルアリ尙亦之ガ加隣用空氣辨ニ對シテハ飛行機車輪ノ空氣辨ト同一ナルヲ知レルモノ少シ

(三)分隊士級特ニ若年士官(學校出又ハ豫備士官)中ニハ作業實施ニ關シ下士官委セノ者アリ又終始試運轉一ツ行ハザル分隊士アリ之等ハ自信ヲ喪失スルト共ニ指揮統率力ヲ失フモノニシテ充分留意

シ指導ノ要アリ

(一)夜間整備施設ヲ早急整備ノ要アリ

作戰激化スルニ從ヒ夜間整備ノ要亦大トナルコト累次ノ作戰ニ依リ明カナリ、然ルニ今次南九州各基地ニ於ケル敵ノ面露ハ先ヅ居住區域及格納庫地區ニ集中セラレアルヲ以テ夜間整備ヲ格納庫内ニテ實施スルコト不可能トナル故ニ有蓋格納庫或ハ無蓋格納庫ニハ簡單ナル屋根ヲ附シ偽裝ヲ充分ナラシメ尙前後方ニ遮光施設ヲ設ケタルモノヲ二乃至三箇所ニ設備スルヲ可トス

(二)飛行機製作會社ノ被爆又ハ疎開ニヨリ飛行機ノ生産能力低下シ特ニ部品工場ノ喪失ニヨリ飛行機組立意ノ如クナラザルノトキ今日ノ破損機ヲ應急修繕シ明日ノ戰闘ニ備ハルハ實動機數向上ノ重大要素ナリ、之ガ爲ニハ機内工作力並ニ航空廠ノ全能力發揮以外ニ道ナシ之ガ爲左記ニ留意スルヲ要ス

(一)平常ヨリ工作科ニ對シ飛行機ノ修理作業(特ニ脚尾部、翼端)ヲ實施セシメ專ラ實力ヲ向上ヲ計リ飛行機ニ對スル自信ヲ持ツ如ク指導シ置クヲ要ス、一機ニ工作科員ハ實際工員ヨリ優秀ナル技術ヲ保持シ居ルニ拘ラズ初メテ飛行機ノ重要部分ヲ修理セシムル時

ハ一種ノ恐怖心ノタメ作戦不能ト考ヘルヲ例トス  
 (二) 空戦工員ニ對シテハ在隊中軍隊ト同一待遇ヲ與ヘ「我モ軍ノ一員ナリ」トノ自覺ヲ持ツ如ク指導スル一方工員ハ指導者ナキトキハ作業著シク散漫トナルヲ例トスルヲ以テ請負的作業方法並ニ臨時モ自ラ離サザル指導監督ニヨリ十二分ニ其ノ實力ヲ發揮セシムベキモノト認ム

(三) 要修理飛行機ハ作戦中敵機ハ必不同時ニ發生シ居ルモノナルヲ以テ之ガ修理ヲ格納庫ニ於テ實施セバ被爆ニ依リ一舉ニ灰燼ニ歸セシムル虞極メテ大ナリ故ニ普通程度ノ被爆ハ飛行機ノ分散箇所ニ修理關係員ヲ派遣シ實施スルヲ校審局限上有利ナリト認ム

「戰例」  
 國分基地ニ於テ格納庫ヲ使用セシタメ修理完成セル零戰二機及略完成セル零戰二機ヲ一舉ニ喪失セリ

(四) 連續被爆ニ依リ電源其ノ他ハ常時破壊セラレ易キモノナルヲ以テ(ハ)項同様夜間作業用機體壕ヲ作製シ電源及壓縮空氣源等ヲ約二百米内外ニ於テ破片爆風ニ耐スル地下ニ設備シ(溝穴アラバ更ニ可ナリ)修理設備ノ破壊セラレザル如ク留意スルヲ要ス

修理設備一度破壊セラレバ之ガ再建ニハ甚大ナル努力ト日數ヲ要スルモノナリ

(一) 爆裝機試運轉時 引火等ニ依ル火災ノ爲爆彈誘發シ大ナル損害ヲ出セル例アリ左記勵行ノ要アリ

(二) 試運轉時ニ引火セバ直ニ爆彈ヲ投下シ飛行機ヨリ十米以上離ラヌヲ要ス

(三) 無蓋機體壕モ爆彈誘發ニハ有効ニシテ「二十五番」破裂時ニテモ隣接機體壕ノ飛行機ニ何等被害ヲ及ボサマリシ例アリ

(四) 炎上機ノ爆彈誘發ニハ八、九分ノ經過時アルヲ例トス(於處屋基地部隊)

(五) 引火ノ際増槽表面ノ燃燒スル事アルモ落下槽ハ落サマルヲ可トス投下スルトキハ却ツテ増槽内ノ燃料溢出シ之ニ引火大事ニ至レル例アリ

(六) 犠牲的精神ヲ發揮シ炎上機附近ノ飛行機ヲ急遽分散スル要アリ

(七) 廢器材ノ部品ニテ回收再生可能ナルモノハ之ガ回收ヲ徹底シ一品一

物ト雖モ取殘サ、ルヲ要ス又使用可能部品ヲ他ニ流用スルヲ全面的ニ禁止スルヲ要ス

(イ) 搭乗員ノ整備教育ヲ更ニ重視勵行ノ要アリ

搭乗員若年化甚シキ一方ニ於テ機材ハ益精緻ノ度ヲ加ヘ特ニ最近ノ發動機ハ取扱管制ノ如何ニ依リ其ノ性能ニ極メテ大ナル差異ヲ齎スノミナラス故障ノ因トナルコト多シ、而シテ之ガ指導ニ任スベキ搭乗員幹部亦極言セバ五十歩百歩ノ知識ヲ有スルニ過ギザルコト少ナカラザルヲ以テ整備幹部ノ特ニ頭ヲ突込ミタル指導ヲ必要トスルモノト認ム

(ロ) 戰闘三〇三飛行隊(零戰)ニ於テハ點火栓不良ニ依リ途中ヨリ引返セルモノ殆ンドナキ狀況ナルカ右ハ隊長ノ熱心ナル指導教育ニ基クモノト認メラル

(ハ) 紫電改ノ空戰後ノ發動機故障ニ依ル不時着相當ニアリ、右ハ發動機不良ヲ最大原因ト考ヘラル、モ搭乗員ノ管制不良、特ニ空戰ニ際シテノAMC關係ノ管制不徹底ニ依ルモノモアリト認メラル

(ニ) 地上試運轉時簡溫計示度一〇〇度以下ナルヲ見テ計度ノ故障ナルコトヲ悟ラズ「カウルフラツプ」全閉ニテ上昇發動機ヲ燒損セル

者アリ

五 機材關係

(イ) 一般

(一) 點火系統ノ不良ハ尙跡ヲ絶タズ點火栓ノ汚損ハ單ニ點火栓ノ不良ニノミ起因スルモノニ非ズ過給器油止「リング」ノ不良及「ピストン」油止「リング」不良等ニ依ルモノ多シ故ニ發動機搭載後又ハ作戦開始前充分此ノ點ニ留意シ徹底的ナル點火栓汚損防止對策ヲ成シ作戦ニ望ムヲ要ス

(ロ) 良好ナル發動機ニ於ケル點火栓汚損ノ原因トシテ

(1) 低「ピツチ」(從ツテ回轉ニテ押ハラル)ニ依ル低「ブリスト」

煖機

(2) 油溫過昇

(3) 簡溫過昇

等ガ考ヘラル、ヲ以テ高節ニテ煖機(零戰)ノ如ク變節範圍ノ大ナルモノハ一三〇〇回轉「ブリスト」(一)二〇〇耗「テ實施シ然ル後短時間高「ブリスト」(一)五〇耗位ノ運轉ヲ實施スルヲ可トス但シ此ノ間(2)(3)項ヲ來サマル如ク留意スルヲ要ス

(ロ) 各機種ニ關スル事項

(一) 甚 星

(1) 點火栓汚損

機體ヨリ出發點ニ至ル地上滑走中ノ低「ブリスト」使用ニ起因スルモノト認メラレ甚星引返ノ大部分ヲ占ム

(2) 油對策及搭乗員ノ教育ノ徹底ヲ期スル要アリ

自下金星六二型ノ不足ニ依リ作戰前充分ナル對策ヲ實施シ得ザル狀況ナリ

(二) 零 戰

(1) 點火栓座弛緩或ハ脱落

S-1三〇三飛行隊ニ於テ一月半ニ八件アリ各件共四乃至六個ノ點火栓座弛緩ス機作會社ノ工作法ニ對シ至急對策指導ノ要アリ

(2) 過給器驅動摩擦痕燒損

S-1三〇三飛行隊ニ於テ三ヶ月間ニ二十數件アリ材質ノ不良及油滓ノ滯溜ニ依ルモノト認メラレ後者ニ對シテハ屢一速二速ノ變更ヲ實施シ油滓滯溜ヲ防止シ又油滓ノ點檢清掃並ニ砂塵多キ基地ニ於テハ潤滑油使用時數ノ短縮ヲ實施スル要アリ

前者ニ對シテハ至急對策ノ要アリ

(3) 「ケルメット」主軸受燒損

(4) 點火栓汚損大ナルモノ

各基地共多ク(一)項對策ニ日時ヲ要セリ

(5) 増槽ヲ裝備セン場合ノ脚收納不能

増槽附近ニテ氣流變化スル爲脚櫃(機體側)ガ脚收納時脚ニ當ルモノニシテ二乃至三回收納ヲヤリ直セバ入ルモノ多シ但シ之ニ對シテモ何等カノ對策ノ要アリ、今次ハ已ムテ得ズ胴體側ニ輕ク釣り居ルモノアリタリ

(6) 上空一ニ速使用附近ヨリ一ニ於テ油壓下ルモノ

各油濾ニ塵埃帶溜セルニ依ル特ニ不良甚星ニテ生起ノ算大ナリ

(三) 發動機ノ不良狀況

此ノ種發動機ノ故障ハ點檢整備ニテハ極メテ發見困難ナル處ニ起

因スルモノ比較的多シ

(1) 「ケルメット」軸受ノ燒損

(2) 接合棒折損

(3) 「シリンドラ」龜裂

(4) 油漏洩

等ニ依ルモノナリ

第十 兵器關係

一、兵器整備指揮官ノ研究努力ヲ必要トス  
 現地ニ於ケル兵器整備ノ能力低下ハ兵器整備員ノ技術低下ニ依ル所少  
 ナカラスト雖モ寧ロ指揮官ノ作業指揮區分編制ノ拙劣整備上ノ着眼點  
 ノ指示不徹底等ニ基ク所達ニ大ナル如シテ例ヲ舉グレバ三四三空ハ松  
 山基地ニ於テハ敵機動部隊ノ遠擊戰團ニ於テ機銃ノ故障皆無ニ等シキ  
 良好ナル成績ヲ學ゲタルモ鹿屋進出直後ニ於テハ約三割ノ機銃ノ故障  
 ヲ生ジタリ原因ハ進出當時手不足等アルモ要ハ指揮官ノ作業指揮、區  
 分ノ拙劣ニアリト認メラル

二、各種兵器整備員ハ凡テ飛行長ノ指揮下ニ入ル、ヲ要ス  
 現在兵器整備員ニハ射撃、光學、寫眞、無線、電測、雷擊ノ種類アル  
 モ飛行隊ノ兵器分隊ニハ射撃、光學、寫眞ノ兵器員ノミ配員セラレ無  
 線、電測兵器員ハ航空隊司令、通信長ノ所在ノ基地ニ於テハ通信科ニ  
 編入セラレ通信長不在ノ基地ニ於テハ兵器分隊ニ編入セラレアリ又雷  
 擊兵器員ハ魚雷訓練班ニ編入セラレアリ  
 從テ飛行隊長ガ兵器整備員ヲ指揮掌握スル上ニ於テ無線、電測、雷擊  
 兵器員ニ關シテハ極メテ不徹底ノ態アリ速ニ空部隊ニ於テハ之等兵器

整備員ハ兵器分隊長ノ指揮下ニ入レ飛行隊長之ヲ總括指揮スルノ要アリ  
 之ガ爲ニハ兵器部指揮官教育ヲ差當リ機種別トシ人員ニ余裕ヲ生ジタ  
 ルトキ各兵器別教育ヲ施シタルモノヲ多數配員スルヲ至當ト認ム

三、現用兵器ノ故障並ニ改善事項左ノ如シ

(1) 機銃

(一) 九九式二十耗二號四型

本機銃ハ實施部隊ニ於テモ漸ク整備法ヲ体得シ極メテ少キモ其ノ  
 主ナルモノヲ舉グレバ次ノ如シ

故障種別	主ナル原因
打發放出不良	塗油不足ニ依ル燒付 彈丸締付部ノ緩ミニ依ル發藥ノ濕潤
不給彈	彈帶調整不良 保彈子不良品除去不充分 塗油不足ニ依ル燒付 藥莖ノ硬「パネ」ノ過長

故障

突込	給弾口「バネ」ノ「ヘタリ」 (本件ハ多量城製ニ特ニ多シ)
不良給弾(折曲リ)	弾丸給付部ノ緩シ
不發	雷管感度ノ不良

(二) 三式十三耗

本機銃ハ零戰五二型ニ於テハ九九式二十耗四型機銃ヨリモ寧ロ故障件數多シ是際備員ノ取扱不慣レト機銃彈藥包其ノモノモ二十耗ノ其レヨリモ不良個所多キニ依ル主ナル故障原因左ノ如シ

故障種別	主ナル原因
不給弾	装填挺「バネ」ノ「ヘタリ」 給弾挺前部ノ前蓋通路トノ摩擦過大 装填挺起動片位置ノ後方偏倚 彈帶調整ノ不良 保彈子不良品ノ除去不充分 給弾通路ノ嵌合不良

不發	打針「ハネ」ノ「ヘタリ」 彈簧用部不足 拔弾後ノ打針「バネ」落シノ不勵行 銃身後面ト機管前面ノ不一致 「ボンチ」ニ合シタル狀況ニ於テ 不良ノモノアリ
彈丸ノ藥室殘リ	燒通ノ彈徑過大 茨口「カシメ」不良
三式同調發射管制 機銃電氣ノ變動 レサルモノ	耐久力不足 機銃作動點檢時長時間(三〇秒以上) 電流ヲ通スレバ燒付クコトアリ

(三) 三式十三耗

本機銃ハ實施部隊ニ於テ空戰後歸投シタル飛行機少ナキタメ故障狀況明確ナラザルモ其ノ主ナルモノ左記ノ如シ

故障種別	主ナル原因
打針折損	材質硬ニ工作不良
装填挺ノ折損	材質硬ニ工作不良

照星照門ノ「カタ」	工作不良
銃身先戻リ	閉鎖金懸金ノ「カタ」 閉鎖金懸金ノ「マクレ」 閉鎖金留金ノ「マクレ」

(四) 爆弾

現用五〇番爆弾ノ吊環ハ八〇番ト同一ナルモ特攻爆装機トシテハ從來二五番ヲ搭載スル如ク計畫サレタル飛行機ガ五〇番ヲ搭載シアルヲ以テ五〇番ノ吊環ハ二五番ト同型ニ改造シ二五番搭載ノ機種ハ直ニ五〇番ヲ搭載可能ナル如クスル要アリ

現用機兵装上ノ不具合事項亟ニ改善事項左ノ如シ  
(1) 飛行機附屬兵器タル爆弾捲揚機ハ廢止スルヲ可ト認ム

現地ニ於テハ機体附屬ノ捲揚機ニ依リ爆弾ヲ搭載セバ莫大ナル勞力ト時間トヲ要スルヲ以テ爆弾運搬車ニ依リ搭載シツツアリ  
飛行機増産ノ見地ヨリ差當リ左ノ機種ニ對スル爆弾捲揚機ハ廢止スルヲ至當ト認ム  
銀 河 流 島

(四) 零戦五二丙型關係

(一) 現地ニ於テハ二五番爆弾ノ特攻爆装機ハ全々實施シ非ザルヲ以テ遠カニ五〇番爆装機(五〇番連二型)同改一ノ工事ニ變換ノ要アリ  
(二) 九九式二十粒二號五型機銃使用ニ際シテハ機銃取付支基ノ強度不充分ニシテ現在増速機值ハ現地ニ相當多量供給サレアルモ使用不能ノ狀況ナリ速カニ強度剛性増大對策實施ノ要アリ

(三) 紫電改關係

(一) 機銃照準器防護「シヤッター」安全解除把手ノ作動不確實ニシテ一杯解除ノ位置ニ引揚グルモ解除トナラザルモノ又一杯安全ノ位置ニ押下グルモ安全トナラザルモノ相當數アリ之カタメ前者ハ全銃發射不能ノ故障トナリ後者ハ地上ニ於テ時々誤發ヲ生起セリ現安全解除ノ型式ハ根本的ニ機構作動不良ニシテ設計變更ノ要アリ  
(二) 落下増槽懸吊鈎ノ投下力量過大故ニ増槽抑へ支基ノ變レニ依ル離陸時ノ不時落下故障アリ根本對策實施ノ要アリ

(三) 照準器位置ノ高過ぎ或ニ振動大  
本件ハ我慢シ使用差支ヘナキ程度ナルモ生産機ニ影響セザル程度ニ於テ可及的速ニ改善ヲ要望セシレアリ

(一) 警星三三型

「スロットレバー」上部ノ爆彈投下電鍵強度不足ナリ  
本件ハ警星ノミナラス各機種共通ニ生起セル問題ニシテ特ニ警星ニ  
多キ現狀ナリ速ニ該投下電鍵ハ單獨兵器トシテ良好ナル部品ノ供給  
ヲ要ス

(二) 警星四三型

(一) 五〇番爆裝工事ヲ五〇番通二型及同改一ニ變換ヲ要ス

現兵裝ハ二式五〇番通一型ニ對スル工事ヲ實施シアルモ二式五〇  
番ハ炸藥量少ク現地ニ於テハ五〇番通二型ヲ專ラ使用セル狀況ナ  
レバ該兵裝工事ニ變換ノ要アリ

(二) 八〇番五號爆彈爆裝工事ハ不要ナリ

警星四三型ヲ以テシテモ八〇番五號爆彈ノ均衡擊速ヲ得ルコトハ  
困難ニシテ八〇番ヲ使用スルトセバ通ヲ使用スルヲ以テ五號爆彈  
爆裝工事ハ廢止スルヲ宜ト認ム

(三) 九七式大型爆彈抱締鈎手動索取付金具ハ投下爆管ニテ投下試験ヲ  
實施セバ一回ニテ折損スルモノ多シ該金具ノ補強對策ヲ要ス

(外) 銀河

(一) 眩惑彈水面照明彈等ノ投下孔ノ新設ヲ要ス

(二) 計器板ノ反射防止ノ庇ハ有效ナリ全機裝備ノ要アリ

五兵器ノ補給ニ關スル事項

(一) 左記兵器ハ現在鹿屋方面ニ於テハ特ニ跋行的供給品多ク困却シアリ  
將來ハ同一貨車又ハ同一輸送機ニ依リ供給ヲ要ス

(一) 爆彈吊環帶

「註」五〇番ノ吊環帶ハ五〇番通二型、二式五〇番一型ノ二種類  
ヲ要ス、尙五〇番通二型ニハ吊環位置ノ誤作ノモノアリ吊  
環帶二種類ヲ使用セリ

(二) 爆彈信管發火裝置

信管ハ供給ノ場合各機種混用シ供給サレアルモ航空艦隊ヨリ充分要  
望ニ應ジ得ル供給ノ要アリ

(三) 機銃保彈子

現在九州方面ニ於テハ各機種共保彈子ハ機銃彈ノ三割程度ヲ保有  
スルニ過ギズ

(四) 爆彈運搬車

現地ニ於テハ爆彈搭載能力ノ如何ハ爆彈運搬車ノ數ニ左右サレ



所大ナルモ爆彈運搬車ノ數ハ極メテ少ク三式魚雷(魚雷)誘導機ヨリ備用  
シ其ノ窮乏ヲ凌ギツツアル現状ナリ特ニ一五式爆彈車九九式爆彈  
車ハ最モ不足セリ

尙九九式爆彈車ハ皮帶等ノ消耗多ク補用品ノ供給ヲ要ス

(五) 航法、兵器等ニ照準器

(1) 航法兵器中最モ消耗甚シキハ秒時計ナリ特攻隊ト雖モ機動部隊  
攻撃時ハ相當ニ正確ナル航法ヲ實施スル要アレバ更ニ多量供給  
ヲ要ス

(2) 射爆照準器ハ目盛筒子ノ剝離スルモノ及電球「フイラメント」  
ノ切斷スルモノ相當多數アリ何レモ補用品ノ供給ヲ要ス

(四) 左記兵器ハ特ニ不足シアリ更ニ多量供給ヲ要ス

(一) 各種機銃裝彈器

(二) 三十一號爆彈竝ニ同補用品

(三) 紙紙撤布彈(對飛行機用)

(四) 三式標示彈(飛行場標示用)

(五) 水面照明彈(碇泊艦船照明用)

(六) 五〇普通二型、同吊環帶

三式十三耗機銃裝彈器

四各種機銃補用品

九二十八號爆彈(倍)

十二十七號爆彈、同關係附屬兵器

六 戰訓ニ依ル要望兵器左ノ如シ

(一) 敵夜戰同避用ノ欺瞞紙撤布裝置

取扱裝備簡單ナルモノノ研究ヲ要ス

(二) 敵戰團機離脱用ノ「ロケット」噴進裝置

特ニ小型特攻機ニ對シテ各種共通使用可能ナルモノトシ裝備時ノ

巡航速ヲ極力低減セシメサルヲ要ス

(三) 三十三號爆彈ノ促進ヲ要ス

飛行場攻撃用爆彈トシテ小型爆彈ヲ多數搭載不能ナル一式陸攻以外

ノ機種ハ三十一號爆彈ヲ要望スルコト切ナルモ三十一號ハ生産上難

點アルヲ以テ本爆彈ヲ促進スル要アリト認ム

(四) 二十七號爆彈(倍)ノ促進ヲ要ス

戰術九〇一飛行隊ノ二十八號爆彈ヲ以テスル黎明攻撃ハ命中精度極  
メテ良好ニシテ更ニ二十八號ノ威力ヲ増大セル二十七號(倍)ノ出現ヲ  
要望スル所大ナリ

第十一 敵ノ特性戰法

航空擊滅戰ニ於ケル

航空擊滅戰ニ於ケル、大都市等ノ攻撃ニ關シテ相當ノ威力ヲ示シツツアリト認メラル、處航空擊滅戰ニ對スル直接的用法ニ於テモ決シテ輕視ヲ許サレザル威力ヲ有ス

即チ南九州方面航空基地ニ對スルト艦載機トノ攻撃威力ヲ比較スルニ左ノ如キ大ナル差ヲ示シアリ

(イ) 三月中艦載機來襲延機 二三三〇機 飛行機地上被害 炎上又ハ大破 七七機 中小破一四六機

(ロ) 五月十三、十四日敵來襲時ノ延敵機數 約一〇〇〇機 飛行機地上被害 四〇機

(ハ) 四月中來襲延機數 約一一四〇機 飛行機地上被害 炎上大破二一〇機 中小破二九〇機 而シテ我基地ノ防衛態勢整備スルニ從ヒ小型艦載機ニ依ル被害ハ益減

少シ單ニ制空權ヲ敵手ニ委ネアリトノ精神的壓迫ヲ強ヒラル、ニ過ギザルコト、ナルベキモ、攻撃ニ對シテハ廣範圍分散以外ニ、對應手段ナク被害局限困難ニシテ更ニ離着陸地帯ノ破壊ニ依ル轉覆其

ノ他間接的被害ハ表ニ現ハレザルモ甚大ナルモノアルベキニ注意ヲ要ス

敵ノ哨戒狀況

我特攻ニ對スル敵ノ對策ハ極メテ眞剣ニ研究、實施サレアル如シ

沖繩方面ニ於ケル敵ノ警戒狀況左ノ如シ (イ) 遠距離哨戒ニハ PBM 等ヲ使用九州西岸朝鮮南岸ニ迄及ビ極メテ綿密

ナリ (ロ) 艦艇哨戒ハ殘波岬ヲ中心トシテ全周ヲ十六區分シ一區ニ一乃至三隻宛ノ電波哨戒艦ヲ配ス、又各象限ニ一隻宛大型驅逐艦程度ノ綜合哨

戒及鑑査艦ヲ配シ更ニ八哨區ニ一隻宛大型哨戒艦ヲ配ス右艦艇ハ主トシテ電探哨戒ヲ實施シ殘波岬ヨリ一二〇哩圈内ニ入りタル我飛行機ヲ捕捉セル時ハ電話ヲ以テ警戒戰闘機ヲ誘導ス(詳細ニ關シテハ

電測學校戰訓速報第五編參照) (ハ) 前進的ノ哨戒兵力トシテ潛水艦ヲ多數使用シアリ、機動部隊ノ前程哨戒トシテモ使用シアル如シ

(ニ) 敵戰闘機ハ奄美大島北方ニ最前方哨戒線ヲ張りアリ、夜戰モ大体同様ニシテ一般ニ喜界島ノ東西線及鳥島ノ四五度線ニ行動シアルモノ

ノ如シ

敵戰團機ニ關スル事項

- (1) 敵哨戒戰團機ハ四乃至八機ノ編隊ニテ廣範圍ニ配置シ一定地點ヲ遊弋特ニ最近ハ相當低高度ニ重點ヲ置ク、我が戰團機ノ相當數ノ編隊ニ對シテハ眞面目ナル戰團ヲ避ケ少數機及攻撃機、偵察機ニ對シテハ執拗ナル攻撃ヲ加ヘアリ
- (2) 敵戰團機ノ加速「ロケット」ハ其ノ裝備ノ有無ニ關シ議論アリタルモ捕虜ノ言及各部ニ於テ目撃セル狀況ヲ綜合スルニハ六本SB20リタル本ヲ何レモ翼下一「ロケット」爆彈ト同一位置ニ裝備シアル如シ、一本ノ作動秒時二秒ナリト稱ス
- (3) 敵ハ我捨身ノ攻撃ニ對シテハ戰意ヲ喪失スルコトアリ特攻爆戰ガ敵戰團機ニ機ト遭遇一機ニ對シ捨身ノ正面衝突ヲ企圖セルトコロ二機共倉皇トシテ逃走シ特攻機無事歸還セル例アリ
- (4) 敵夜戰ハ機首ハ機尾ニモアリト云フ者アリ、ニ橙色ノ灯ヲ附シ約一〇〇米附近ヨリ視認可能（赤外線探照灯ト推定セラル、モ確實ナラズ）ナリ機首ヲ振りツ、近接シ來ル故ニ之ヲ認メバ電探欺瞞紙ヲ撤布スルト共ニ急降下急旋回ニテ回避セバ離脫容易ナリ

(4) 敵戰團機ハ紫電改ニ對シテハ相當警戒シアリ空戰時増槽ヲ投下スル様ニナレリ

敵機動部隊ノ防禦砲火ハ台灣沖ノ戰例ニ反シ至近距離ニ近接スルモ發砲セズ我方敵ヲ視認シ得ル程度ノ距離ニ到リテ急激ニ猛射ヲ浴ス

一般水上艦艇ハ相當遠距離ヨリ發砲スルコト多ク概ネ俯角三〇度附近ヲ注意シオレバ發砲時ノ火光ニヨリ射撃開始ヲ知り得

敵ハ比較的單純ナル欺瞞手段ニモ引掛ルコト多シ

鹿屋ニ於テハ土地ノ學童ヲ動員シテ製作セシメタル極メテ粗雑ナル囃飛行機奏功シ又菊水一號作戦時敵機動部隊ノ東方ニ對シ彩雲ヲ以テ電探欺瞞ヲ行ヒタルニ敵ハ南大東島ニ對シ約二〇〇機ヲ以テ攻撃シ來レリ

六 光學兵器關係

(1) 四月初旬鹿屋基地ニテ擊墜セルF6Fヨリ有機「ガラス」製鏡玉裝備ノ寫眞機ノ一部ヲ發見セリ全貌不明ナルモ鏡玉部分ノミノ調査ニ依レバ焦點距離一、五米乃至二米程度ノ望遠型式鏡玉ニシテ前玉ハ通常有機「ガラス」ヲ「プレス」加工セルモノナルモ后玉「レンズ」ハ特異ナル性能ハ屈折率分散能ヲ有スル特殊有機「ガラス」ヲ使

用シ有ル如シ  
 (ロ) IAF 台湾ニ於テ墜撃セル SB20 ヨリ十六耗活動寫真機ヲ押收セリ  
 本寫真機ハ極メテ小型 (2kg) 程度ノ電動式ニシテ翼内裝備可能ナルモ  
 ノノ如キモ押收品ニハ簡單ナル把柄ヲ附シ手持式トナシアリ、天然  
 色「フキルム」ヲ裝填シアリテ日晝「フキルム」交換自在ナル如ク  
 「マガデン」ヲ使用シアリ。  
 主トシテ小型機ニ携行戦果確認、攻撃目標ノ確認又ハ至近距離寫真  
 偵察等ノ目的ニ使用サルルモノト認メラル。

附 録 作 戦 經 過 概 要

一 般 經 過

- (イ) 敵ハ比島ノ主要據點ヲ制シテ我本土ト南方資源地帯トノ紐帶ヲ切斷  
 シ更ニ硫黃島ヲ陥シテ著シク本土侵攻ノ態勢ヲ強化スルニ至レリ而  
 シテ敵ノ次期作戦ハ台湾又ハ南西諸島ニ指向セララルノ算最モ大ト  
 推定セラレ我ハ本方面ニ對スル防備ヲ着々實施シ特ニ航空兵力ニ關  
 シテハ主力タル 5AF ヲ九州ニ展開シ比島ヨリ轉進セル IAF ヲ台湾ニ配シ  
 三月中旬邀撃体勢ヲ概成セリ
- (ロ) 通信牒報ニ依リ三月十四日敵「ウルシイ」ヲ出撃セルコトヲ概知  
 シ三月十八日乃至十九日九州又ハ南西諸島方面ニ來襲スルモノト判  
 斷ス
- (ハ) 三月十七日ノ夜間哨戒ニ依リ五群ヨリ成ル敵 KdB ヲ九州南東方海面ニ  
 先制捕捉シ十八日黎明ヨリ二十一日午前ニ亘リ反覆猛攻ヲ加ヘ相當  
 ノ戦果ヲ擧ゲタリ敵ハ十八、十九、二十日ノ三日間九州、四國、内  
 海、中國方面ノ航空基地、軍事施設、艦船等ヲ攻撃セル後南方ニ遁  
 走セリ
- (ニ) 三月二十三日敵 KdB 頁ニ南西諸島ニ來襲同方面ニ對スル敵ノ攻略企圖

濃化ヲ示セルガ果然三月二十五日早朝沖繩島西方慶良間列島ニ敵攻  
略部隊出現上陸ヲ開始セリ  
敵機動部隊ハ攻略作戰ノ間接支援ニ任ジ二十九日、三十日再度九州  
方面航空基地ニ來襲我航空兵力ノ制壓ヲ企圖セシガ右ニ膚接シテ攻  
略部隊主力ハ四月一日沖繩島西方海岸北飛行場附近ニ其ノ主上陸作  
戰ヲ展開セリ

(\*) 三月二十六日天一號作戰發動下令セラレ 5AF 3AF 0AF ノ作戰可動兵力ヲ  
併セ指揮シ全軍特攻ヲ其ノ大方針トシテ 陸軍第六航空軍ト協力沖繩  
ノ敵ニ對シ航空攻撃ヲ開始ス

(\*) 敵ノ沖繩島ニ對スル攻略戰團ハ我守備軍ノ殊死奮戰ニモ拘ラズ次第  
ニ其ノ歩ヲ進メ四月三日既ニシテ北飛行場ノ使用ヲ開始シ四月六日  
ニハ慶良間泊地ニ三十數機ノ飛行艇ヲ進出セシメテ哨戒網ヲ強化ス  
四月下旬ニハ中飛行場ヲ占得スル處トナリ夏ニ十六日敵ハ伊江島ニ  
上陸ヲ開始セルガ五月十日頃ニ至リテ伊江島飛行場亦使用可能ノ狀  
態トナレリ斯クテ敵ハ沖繩ニ三箇航空基地ヲ有スルニ至リ其ノ沖繩  
方面基地航空兵力ハ五月十一日北、中飛行場所在小型機約八〇機ナ  
リ

爾後我方ノ猛攻ニ甚大ナル損害ヲ與シツツモ其ノ勢力ヲ漸増シ五月  
二十二日ノ偵察ニ依レバ北飛行場一五〇機、中飛行場八〇機、伊江  
島六〇機程度ノ在地機ヲ認ム

(\*) 敵機動部隊ハ本作戰期間概ネ沖繩南東方海面ニ蟄居シ主トシテ南西  
諸島各基地ノ使用封止、陸上戰團直接協力、沖繩周邊艦船ノ上空哨  
戒ニ任ズルノ外慶南九州ノ航空基地ヲモ攻撃シ來レリ

其ノ兵力ハ我が攻撃ニ依リ漸次ノ減向ニ在リ下雖モ猶五月二十四日  
菊水七號作戰時ニ於ケル偵察ニ依レバ正規空母四隻巡洋母二隻特  
務空母九隻程度ヲ行動セシメ居レリ

(\*) 沖繩島周邊ニハ多數ノ大小艦艇上陸用艦艇蟄居シテ甚大ナル物資  
ノ補給ニ在奔シアリ其ノ數多キ時ハ二百隻ニ垂ントシ少キ時ト雖モ  
五〇隻ヲ下ラズ泊地トシテハ慶良間列島間、嘉手納灣糸滿沖、中城  
灣等ヲ使用ス更ニ之等艦艇ノ直接護衛並ニ陸戰協力ニ從事スル各種  
艦艇極メテ多ク上陸作戰當初ニ於テハ戰艦十乃至十二隻、巡洋艦十  
數隻、特空母數隻、驅逐艦二十數隻程度ノ常駐ヲ見タルモ我航空攻  
撃ニ依リテ甚大ナル損害ヲ被リ次第ニ其ノ數ヲ減ジツツアリ特ニ巡  
洋艦ニ於テ減少ノ度甚シク五月中旬下旬ニ於テハ概ネ戰艦三乃至四隻

巡洋艦三乃至五隻、特空母一乃至二隻、驅逐艦二〇乃至一五隻程度ナリ

(7) 此ノ間 5AM ハ同ジク GF ノ指揮下ニ在ル陸軍第六航空軍ト密接ニ協力シ我基地ヲ對スル敵 KdB ノ攻撃並ニ「マリアナ」方面ヨリスル大型機ノ攻撃ヲ排除シツツ強靱ナル基地航空戦ヲ展開シ沖繩周邊艦船ニ對シ連日連夜攻撃ヲ續行スルト共ニ敵 KdB 近接スル時ハ機ヲ逸セズ之ニ猛攻ヲ集中シ更ニ戦機ニ投ジ敵機ニ及ブ主動的航空總攻撃（菊水作戦ト呼稱ス）ヲ實施シテ多大ノ戦果ヲ擧ゲツアリ

沖繩作戦開始時ヨリ四月末迄ニ機動部隊攻撃十九回使用延機數一二〇機、沖繩周邊艦船攻撃使用延機數八〇機ニシテ其ノ戦果ハ確認セラルモノノミニテ一二〇隻以上其ノ他未確認ノ特攻隊戦果相當アルヲ期待シ得ラル

ニ主 要 作 戦 概 過

(6) 三月十八日乃至二十一日 KdB 遠征戦團

(一) 經過概要

(1) 1530 3-17 5AM 第一戦法用意下令

(2) 3-17 夜間索敵 兵力 fbcx9 fdcx2 2300 2400 三機ネ五群ヲ探知懸接ス

(3) 0205 3-18 5AM 第一戦法發動下令

(4) 0350 3-18 以後黎明攻撃隊逐次發進、兵力 fbbx15 (K501 K406) fbx24 (98F 7F)

(5) 0500 3-18 黎明偵察機發進、兵力 fbx5 K251 戦果 fbxニ依リ Ax1 Bx2 Cx4 撃沈 KdB ノ全貌ヲ偵知ス

即チ敵ハ四群ヨリ成リ各空母4、3、3、5ヲ含む

(6) 3-18 臺間攻撃、 fbbx6 (K262) 特攻ニシテ「全軍必中突撃セヨ」ノ電報

アリ戦果不明

fbx27 (701fg) 特攻、戦果 Ax1 炎上 Cx1 ニ命中其ノ他相當ノ戦果ヲ期待セ